



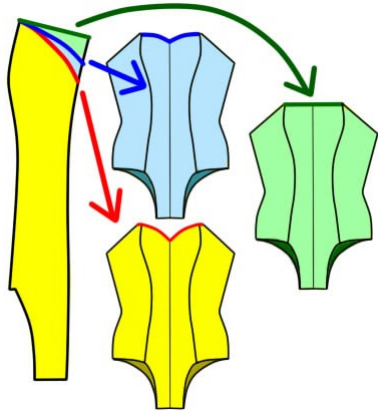
伸縮しない生地でも作れるように作っています。
体にぴったりしたデザインなので、必ず試作を行ってください。

胸の位置はこれ以上下げると腕をあげたときに胸が見えてしまうのでご注意ください。

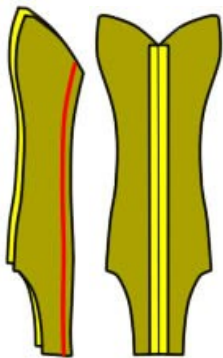
■ が裏 ■ 表

くわしくは縫う前の下準備を参照

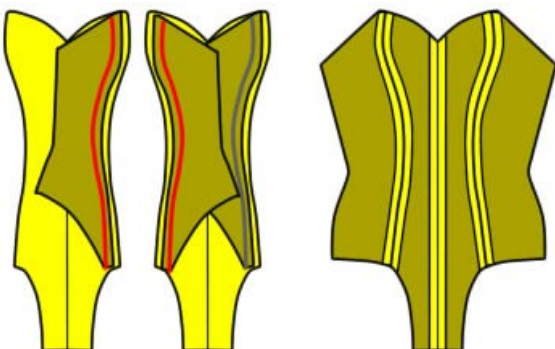
綿生地など端がほつれる生地の場合は、裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。
合皮などの場合は不要です
見返しを綿生地などで作る場合は接着芯を貼ってください
合皮などのほつれにくい生地の場合はほつれ止めも芯も不要です。
(合皮は芯を貼るときに縮む恐れもあるので)



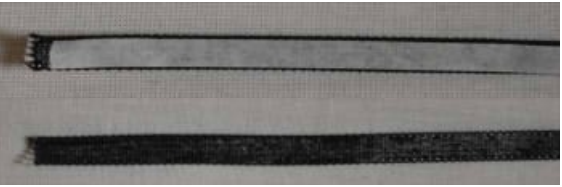
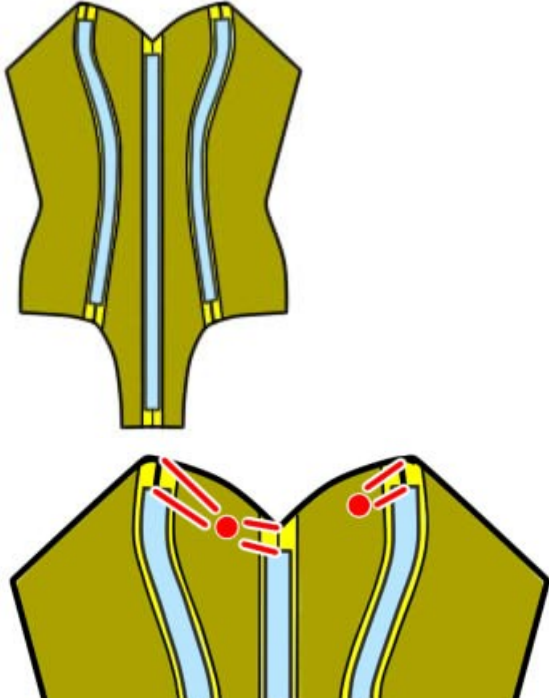

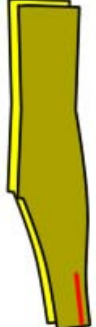
型紙の前中心と見返しには線が複数ありますが
一番下の線で作ると胸のVの切込みが大きくなり、
一番上で作るとまっすぐに近くなります

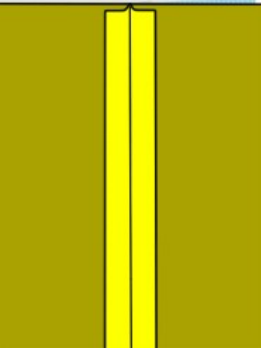
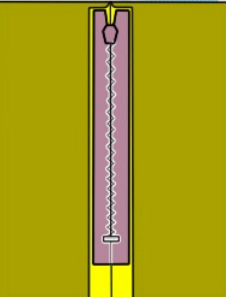
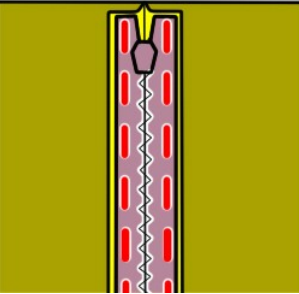
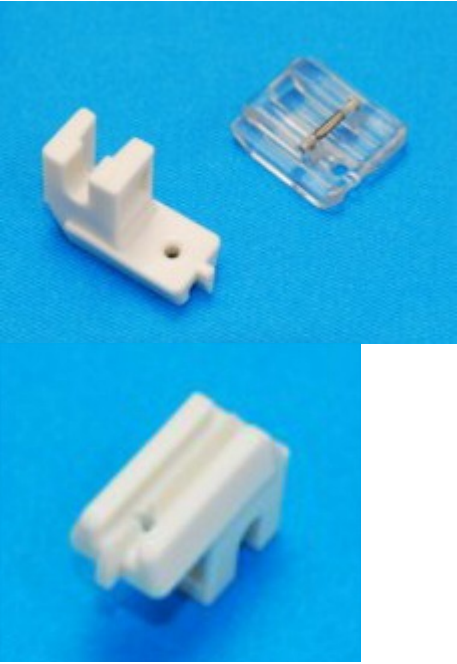


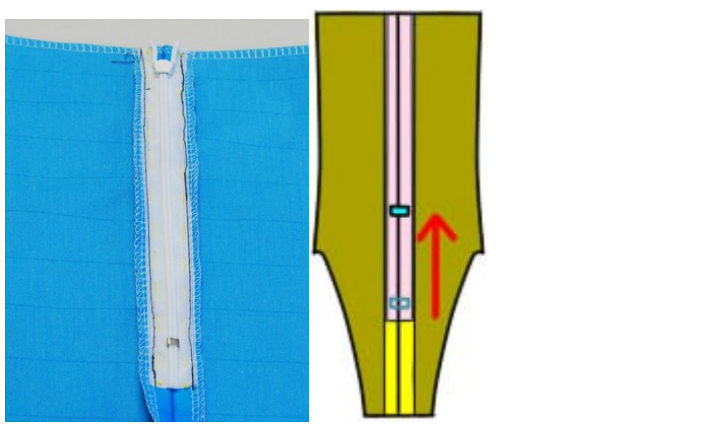
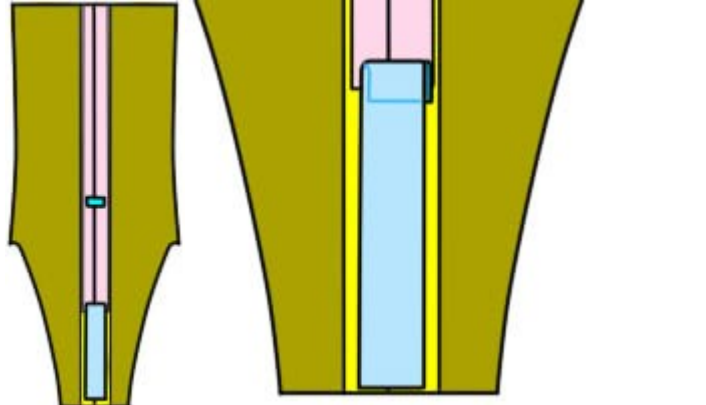
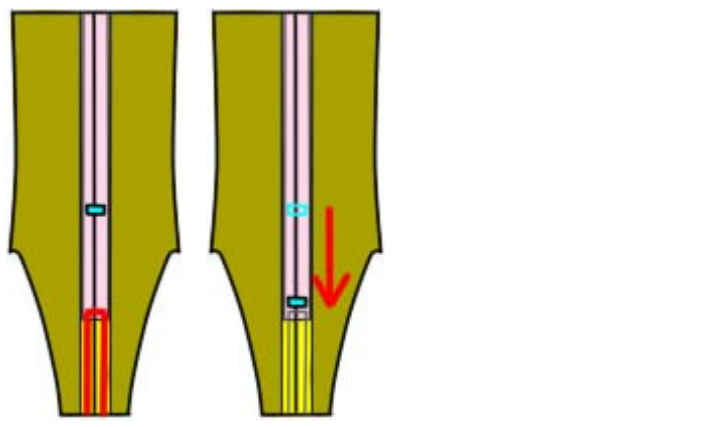
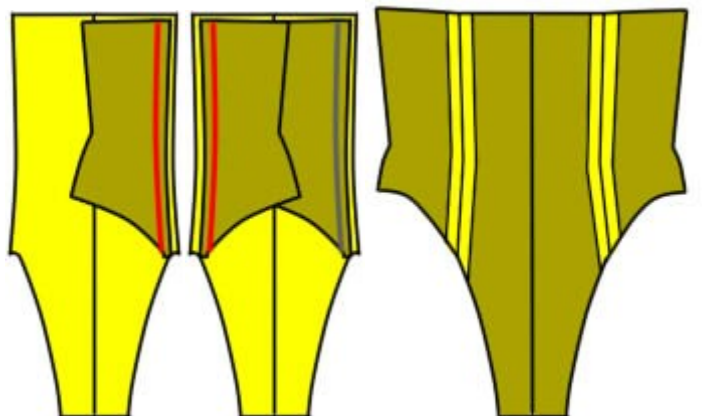
前中心を表同士が内側になるように重ねてください。
中央側を縫ってください。
縫い代は左右に広げてください

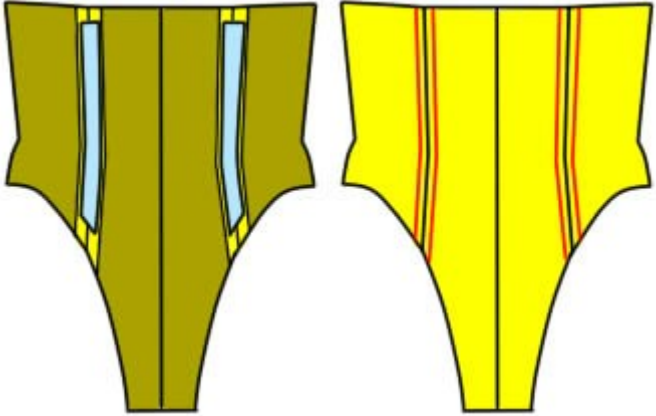
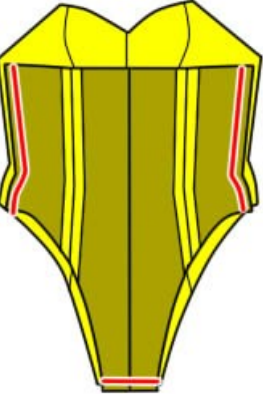
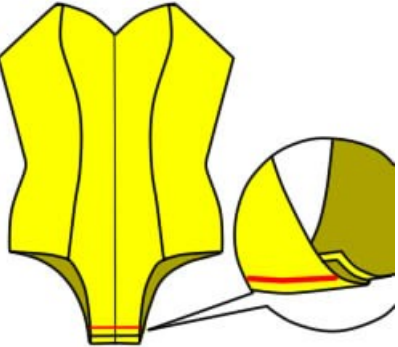
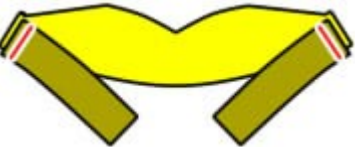
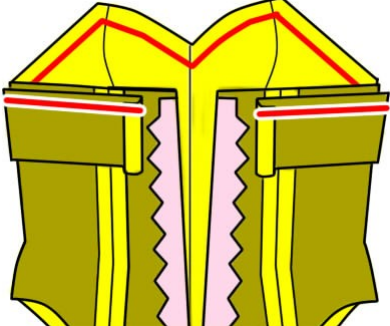



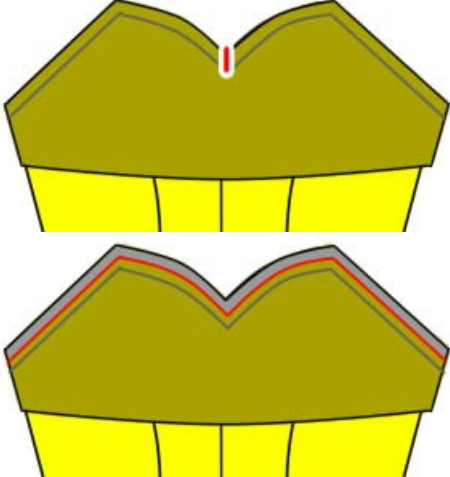
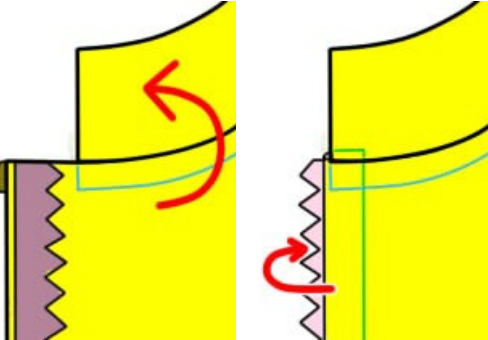
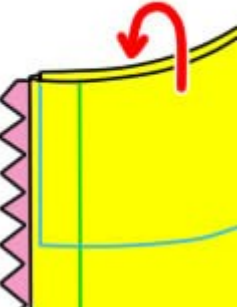
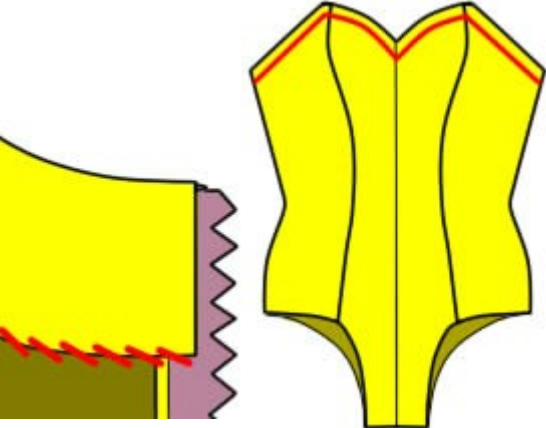
前の中央パーツに、表同士が内側になるように脇を重ねてください。
赤い線のところを縫ってください。
縫い代は左右に広げてください

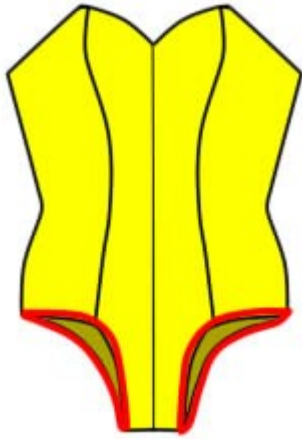
	<p>ボーンにアイロンで熱接着の両面テープを貼ってください。</p> <p>ボーンは縫い付ける所の出来上がりの長さより上下2~3 mm短めに切って下さい。</p> <p>(縫い代を折り返す隙間があるので)</p>
	<p>アイロンでボーンを縫い代の上に中心を合わせるように貼ってください。</p> <p>上から1.2~1.3 mmはあけてください。</p> <p>(縫い代1 cmと折り返したときの厚み2~3 mm)</p> <p>生地によって温度に弱い生地がありますので注意してください。</p> <p>必ずはぎれなどで試してください。</p> <p>写真のエナメルは表から直接かけると縮みますが、縫い代にクッキングペーパーをかぶせて中温度ですと大丈夫でした。</p> <p>ただしアイロンをかけるときに生地を表同士がくっついた状態でアイロンをかけるとくっついて跡がつくのでエナメルを使うときは注意してください。</p> <p>表面にアイロンをかけると多少縮むので注意。</p>
	<p>表から、縫い目の2 mmのところを縫って、ボーンを固定してください。</p>  <p>エナメルはすべりが悪いので、シリコンペンを塗っておくと摩擦が減り縫いやすくなります。</p>
	<p>後身頃の中央の下側を縫ってください。</p> <p>上の部分にコンシールファスナーをつけて下さい。</p> <p>レオタード生地など強い伸縮のある生地で作る場合は、ファスナーを付けなくても良いです。</p>

	<p>ファスナーを付ける位置の、縫い代をアイロンで左右に折ってください</p> <p>(アイロンで縮む生地があるので必ずはぎれで確認してください) アイロンに耐える合皮でも表面に掛ける場合はクッキングシートなどをかぶせてから掛ける。</p>
	<p>裏を上にして生地を置いてください。</p> <p>縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置いてください。</p>
	<p>しつけ糸でファスナーと、縫い代だけを開きどまりの所まで大雑把に縫う。</p>
	<p>ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替える。</p> <p>このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであれば数百円で購入ができます。 お洋服を作る人は1つ持っておくと便利です。</p> <p>左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交換するタイプ用です</p> <p>コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入っています。</p> <p>コンシールファスナー押さえは洋裁をするなら盛っていて絶対損はありません。</p> <p>これ1つあればファスナーがかなり簡単に付けられます。</p>

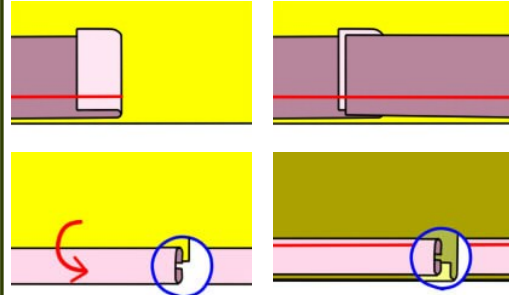
	<p>この溝にファスナーのムシ(レール部分)を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫うことができます そして開きどまりまで縫います あきどまりとはファスナーを開いたとき開く限界のところが開きどまりです。 ファスナーを付け終わったらファスナーの金具が抜けないようにするための下の金具を一時的に上に移動させて下さい。</p>
	<p>縫い代の上に幅が1cm以上のリボンをかさねてください。 ほつれないように上側の縫い代を1cmほど折って、0.5~1cmファスナーに重ねてください。 これでファスナーのレールの端が直接肌に触れなくなります。 リボンの下は股の端より1~2mm短めにしてください。</p>
	<p>ミシンで縫ってください。 このリボン股の縫い目が裂けないようにするための補強です。 スライダーを下げて、ペンチで動かないように締めてください</p>
	<p>後中心のパーツに後脇を表同士が内側になるように重ねてください。 赤い線のところを縫ってください。 縫い代を左右に広げてください</p>

	<p>前と同様に、アイロンでボーンを縫い代の上に中心を合わせるように貼ってください。 ボーンの両端は1.2~1.3 mm短くしてください。 (縫い代1 cmと折り返したときの厚み2~3 mm)</p> <p>表から、縫い目の左右2 mmくらいのところを縫ってください。</p>
	<p>前と後のパーツを表が内側になるように重ねてください。</p> <p>脇と股を縫ってください。</p>
	<p>股下の縫い代を前身ごろ側に折ってください。</p> <p>縫い目から0.5~1cmのところを縫ってください。</p>
	<p>見返しの前後を表が内側になるように重ねてください。</p> <p>脇を縫ってください。</p>
	 <p>身頃と見返しを表同士が内側になるように重ねて縫ってください。 返しの両端はファスナーより5 mm手前で折ってくだ</p>

	さい。
	<p>Vの角やカーブのところは糸を切らない程度に、切り込みを入れておいてください。 い代を5mmに切り落としてください。</p>
	<p>見返しを上に向かって折ってください。 ファスナーを裏に折ってください。</p>
	<p>見返しを裏へかぶせてください。</p>
	<p>見返しの下側をまつりぬいしてください。 端から0.5~1cmのところを縫って見返しを固定してください。</p> <p>合皮等まつり縫い出来ない生地はまつり縫いをしなくて良いです。</p> <p>その場合上をミシンで縫ったあと、縫い目の下1cmで切り落としてください</p>

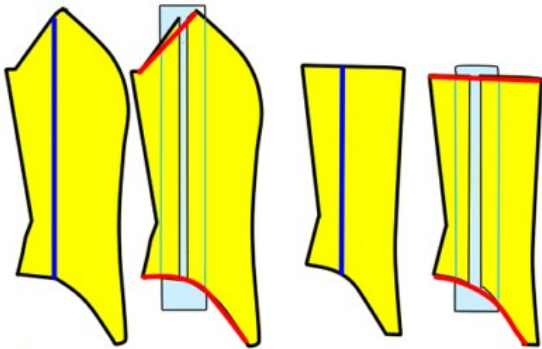


表同士が内側になるようにすそにバイアスを重ねてください



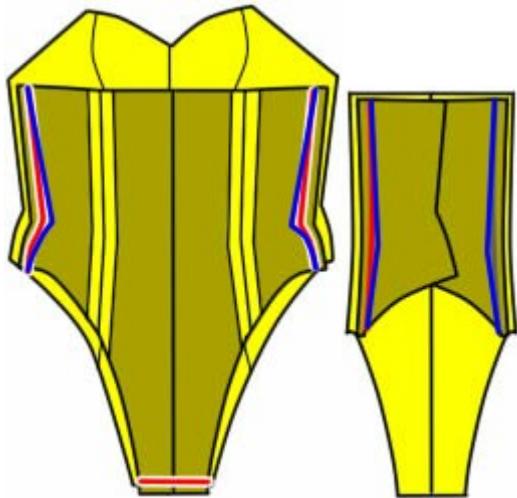
バイアスが完全に裏に隠れるように折り縫ってください。

型紙の修正



全体的に大きくしたい場合は前後の脇パーツを、布の向きの線に平行に切り、大きくしたい分量の4分の1の幅広げ、紙を足して固定してください。

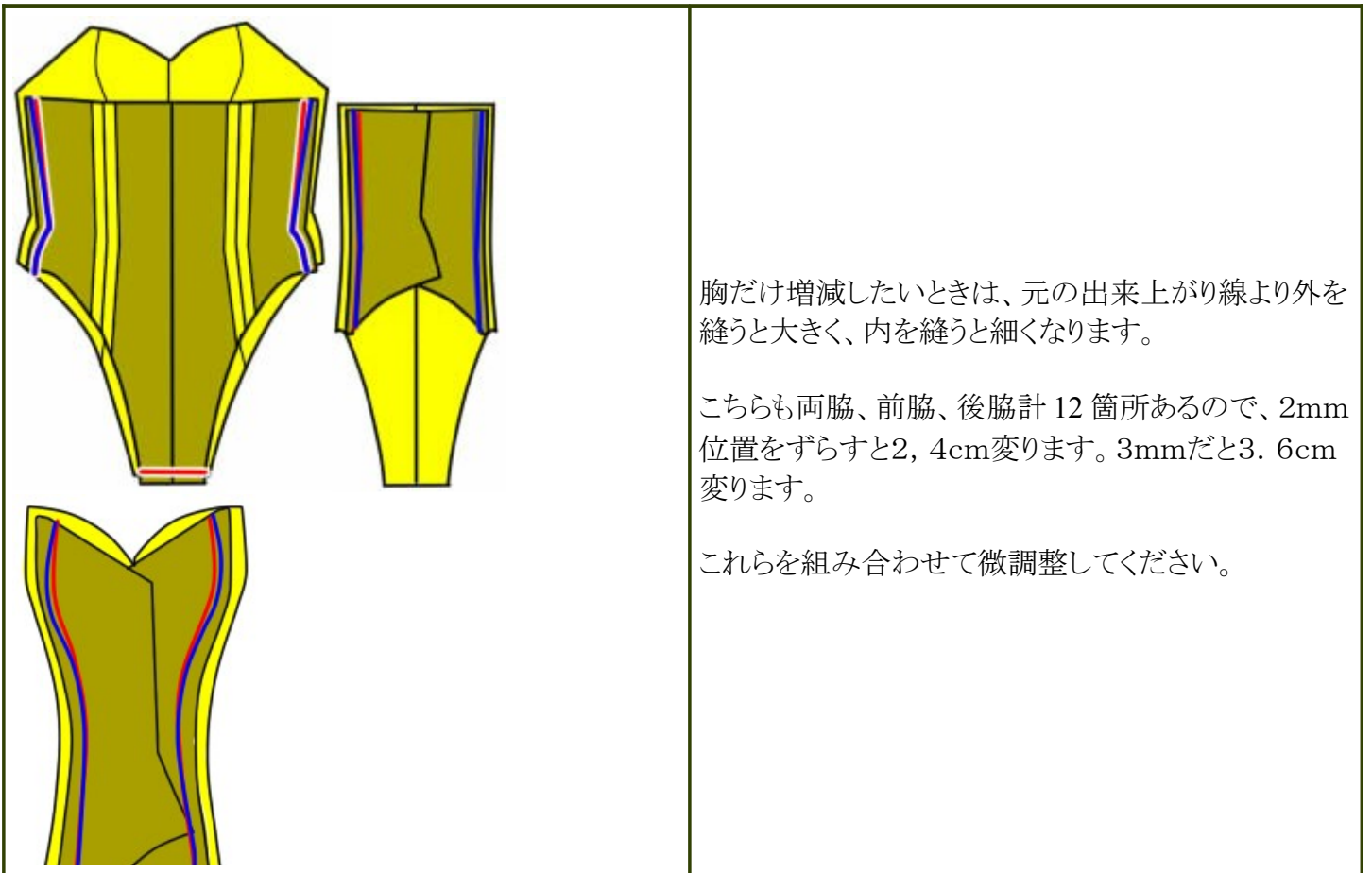
線がなだらかに繋がるように清書して下さい



調整の量がそんなに多くなり場合

試作を作ってウエストだけ増減したいときは青の線のようにウエストの高さで少し内向きを縫うと細く、外向きに縫うと太くなります。

両脇、前脇、後脇計12箇所あるので、2mm位置をずらすと2,4cm変わります。



胸だけ増減したいときは、元の出来上がり線より外を縫うと大きく、内を縫うと細くなります。

こちらも両脇、前脇、後脇計 12 箇所あるので、2mm 位置をずらすと 2, 4cm 変わります。3mm だと 3. 6cm 変わります。

これらを組み合わせて微調整してください。

◆ 必要な材料 ◆

・エナメルレザー

・2WAY(左右に伸びる)生地

※白や薄い色合いの生地は下が透けやすいので、下にもう一枚下地を着る必要があります。

エッフェル スーパーストレッチミシン糸

伸縮のある生地で作る時は伸びる糸を使用して縫ってください。

普通の糸で縫うと、生地を伸ばして着るときに糸が切れてしまいますので必ず伸びる糸をご使用ください。

ボーン

地がペロンと落ちてこないようにするための骨組みです。

ライクボーンやボーンテープという名前と呼ばれます